

令和5年度鹿児島港中央港区開発推進協議会総会議事録

1 開催日時及び場所

(日時) 令和5年10月6日(金) 13:30~14:05

(場所) 鹿児島木材産業協同組合 事務所2階会議室

2 会員数及び出席者数

- ・ 会員数100人 (鹿児島市三号用地振興協議会41人、鹿児島機械金属工業団地協同組合12人、鹿児島木材産業協同組合23人、その他24人)
- ・ 出席者数48人
- ・ 報道機関1人(建設新聞)

3 議事の内容

- ・ 定刻に至り、事務局担当者が開会を宣する。
- ・ 柴立会長より開会のあいさつがなされた。
- ・ 関係行政機関の来賓あいさつが行われた。
国土交通省鹿児島港湾・空港整備事務所 三好 所長
鹿児島市都市計画部都市計画課 山中 課長
- ・ 議長については、規約により会長が行うこととなっていることから、柴立会長が議長席につき議事の審議に入る。
- ・ 第1号議題令和4年度事業実績及び第2号議案令和5年度事業計画について議長が説明を求めたので、事務局員は別紙資料により説明を行い、了承された。
- ・ その他について
中央港区の整備にかかる県議会の主な議論について事務局員から説明がなされた。
以上で総会での審議を終了したので議長より閉会を宣した。

4 総会終了後、協議会の顧問である柴立鉄平県議会議員、中島蔵人市議会議員よりあいさつがなされた。

総会終了後、以下の講演会及が開催され、多くの会員が参加されました。

◎ 講演会 「鹿児島港中央港区の計画と現状について」

14:10 ~ 14:35

講師 鹿児島県港湾空港課 安藤 港湾対策監

鹿児島港の概要、臨港道路(鴨池中央港区線)の整備、クルーズ船の受入環境整備、旧木材港区の埋立、最近の話題等について、スライドと資料を用いて判りやすく講演していただきました。

◎ 質疑応答・要望等要旨 14:35~14:55

(Q1) クルーズ船の寄港により大型バスが増えて渋滞が激しくなり困った。未だ解消されていないことから渋滞対策を検討してほしい。また、宇宿地区は、宇宿駅からJRで出水まで行かれた事例もあるなど利便性が高い。電車も利用できる。バスを利用するよりも効率的ではないかと考える。宇宿から笹貫、金属団地の区域について、道路の拡幅や歩道の整備なども検討頂きたい。(要望)

(Q2) 木材港の埋立土砂は公共残土に限られ、埋立が全て完了するまで13年かかると言われている。①現在埋立が行われている1工区を先行して利用できないか。②東西幹線道路の土砂が大量に発生すると言われているが、進捗が早くなることはないのか。

(A) ①について、1工区は完成まで8年(R10)を想定している。先行して利用するかどうかは今後の検討課題である。②について、東西道路等からの土砂量に左右されるので、今後の受入状況を注視したい。

(Q3) ①報道によると水深が7m以上ないのでジェットfoilが接岸できないと言われているが実態はどうか、今後どのように取り組むのか。②水深が浅いのは410mの2号岸壁を整備したため陸側に近くなった影響ではないか。

(A) ①についてR元年5月にジェットfoilが試験運行を行ったところで、その後、接岸実績はないが、まずは浮棧橋の利用に関して船社から話を聞いてみたい。②について、水深については脇田川からの土砂流入もあり、浚渫を含めて今後船社と協議したい。

(Q4) 2,000人~3,000人のクルーズ船が来ると大渋滞になり、日常業務に支障があり経済的なロスが発生する。クルーズ船について一人1日当たり、24,800円の経済効果があると言われているが、橋もできていない、海上交通の手段も整備されていない中で、①クルーズ船による経済効果と経済ロスのバランスはどうなるのか。②今後クルーズ船の寄港数は増えるのか。

(A) ②について、我々としては、クルーズ船を受け入れていきたいと考えている。大型イベントが重なった8月19日のクルーズ船2隻同時寄港の際は、マリンポートかごしまへの一般の方の入場規制を行っており、その結果、車の流れは多少抑えられたところ。

①については、港湾の立場としては回答しづらい。

(Q5) マリンポートで花火大会が開催され多くの観客が集まったが、携帯電話の通信障害が発生した。マリンポートの活用を図るためには携帯電話の基地局の設置が必要なので検討してほしい。(要望)